

主人公晋作と親友泰一の
思い出の海岸

しぶ かわ かい がん
渋川海岸

〔玉野市〕



写真提供 岡山県観光連盟

日中は大勢の海水浴客でごった返す浜辺も、朝のうちは人影もまばらで波の寄せる音だけが妙に際だって聞こえていた。そんな浜に向かって、市営休憩所のスピーカーから晴れやかな女性の声流れ始めた。「東西一キロメートルに渡って広がる白い砂浜、青い海。東洋のナポリとうたわれる岡山県下でも最大級の……」

昭和三十五年八月初めの渋川海水浴場である。

晋作と泰一が泳いで
いこうとした島

おお づち じま
大槌島

〔玉野市・高松市〕

「こんなきれいな海で毎日泳げるなんてええな。あのおむすびに似ている、さんかくの島もええ形やし」
泰一は、ほとほと感じ入ったという顔つきで言った。きれいな海、さんかくの島……、晋作は自分の持ち物を褒められたようで気分が良くなった。先ほどの警戒心はたちどころにやわらいできた。
「あの島は大槌島という名前でもどこからでも三角に見えるんじゃない。島のまわりには二十メートルぐらいの大蛇がおるけえ、島に近づいたら食われてしまうんじゃない」

岡山県と香川県の間にあるきれいな円錐形をした島。現在も岡山と香川の県境が島の中央に走る。玉野市日比港の南約3.1キロのところであり、さらに南には小槌島（高松市）がある。周辺は好漁場で、古来より瀬戸内海を航行する船の目印となった。

『岡山・備前・玉野の歴史』郷土出版社より



王子が岳からのぞむ 正面に見えるのが大槌島

写真提供 岡山県観光連盟